

令和元年9月8日現在

機関番号：28003

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01885

研究課題名(和文)「認知症もナンノソノ」公民館を拠点とした地域住民が創る認知症ケアに関する研究

研究課題名(英文) Research on dementia care in collaboration with residents based on community center

研究代表者

永田 美和子 (nagata, miwako)

名桜大学・健康科学部・教授

研究者番号：50369344

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄の文化のひとつである相互扶助に着目し、認知症の理解や予防および認知症になっても住み慣れた地域で生活できる基盤づくりを構築した。具体的には、公民館で月に1回の健康相談活動を継続しながら、A地域住民および看護学生を対象とした認知症サポート養成講座を実施し、認知症を理解し対応のできるサポーターを増やすことができた。また、当該地域の区長や老人会、婦人会、民生委員などと連携を図りながら、認知症を含めた「健康支援」の「場」として、お互いが気遣い合える集う場の構築ができた。看護学生ボランティアは「健康支援プロジェクト学習」の科目として位置づけることができ、継続的に支援ができるようになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年では、消失しつつあるという指摘もあるが、沖縄には以前から“ゆいまーる精神(相互扶助)”を基盤とした地域づくりが行われてきた。現在も公民館を拠点として地域が一体となり、地域の豊年祭の準備から開催や敬老会の開催が伝承され、公民館は子どもから高齢者までの年齢を問わず地域住民の交流の場として根付いている。研究者らは平成25年から1回/月の割合で健康支援活動を実施してきた。その場を活用して、認知症の理解や認知症の相談の場およびお互いがお互いを気遣い合える場を構築したことは、住み慣れた地域で生活するための地域包括ケアシステムの基盤となると考える。

研究成果の概要(英文)： Research was conducted focusing on helping activities, which is one of Okinawa's culture.

Specifically, health support activities were conducted at the community center once a month. Then, I implemented a dementia support training course for nursing students involved in A community and volunteers, and was able to increase the number of supporters who could understand dementia. In addition, we worked with local mayors and senior associations, women's associations, local welfare officers, etc. As a result, there is a gathering place where people can meet each other. Nursing student volunteer can be positioned as a subject of "health support project learning", and it became possible to support continuously.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：認知症 高齢者 地域住民 協働 ケア 公民館

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2013年、日本の高齢者人口は過去最高の3,079万人となり、高齢化率も25.1%と上昇した。それに伴い認知症高齢者も増加し全国の高齢者の有病率は推定15%、約439万人と推計された(厚生労働省、2013)。また、正常でもない、認知症でもない正常と認知症の中間状態の有病者数は380万人と推計されている。地域で生活する一人暮らしの認知症者の支援や老々介護の支援、徘徊に伴う不慮の事故等、認知症ケアは社会問題となっている。超高齢時代を迎え認知症者を支え、認知症になっても支えられる共同体を創出することは喫緊の課題であると言える。

研究者らは、地域の公民館を拠点とした健康づくりの健康推進支援活動を実施している。ゆんたくをキーワードに、2006年から、地域の住民が開催する「朝市」に健康測定コーナーを設け、毎月、住民の健康相談活動を展開し、住民参画型健康支援モデルの開発とその成果について報告した(大城, 2013)。また、公民館を拠点とした健康推進体操を支援し、筋力トレーニング教室に継続参加する高齢者の体験と意味について検証した(永田 2009)。さらに、健康問題を抱える成人期男性を対象に、沖縄のケアリング文化を活用したヘルスプロモーションに関するアクションリサーチの有効性を報告した(大城 2013)。これら、ミニディサービスでの関わりや住民が協働参画している健康推進活動を実践・検証し、ゆんたく(語り合い)を通してつながり、なじみの顔の見えるネットワークの構築が地域で安心して生活するために重要であることを示した。地域での認知症ケアを推進する上で、ゆいまーる文化を基盤とした健康づくり、ゆんたくできるネットワークが重要な要素となると考えている。

2. 研究の目的

沖縄の文化のひとつである相互扶助に着目し、認知症の理解や予防および認知症になっても住み慣れた地域で生活できる基盤づくりを目指している。地域住民の拠り所である公民館を拠点とした、子どもから高齢者が認知症を理解・予防し支え、支えられる「場」づくりをし、住民が主体となる町づくりの構築を目的とするアクションリサーチである。

3. 研究の方法

対象地区での健康体操、食育活動、健康チェック(血圧・体重・体脂肪率・腹囲等)などの健康推進活動を継続し、地域でのヘルスプロモーションを住民と協働で推進する。

対象地区での認知症者(高齢者)の生活の実態の聞き取り調査を行い、地域に伝承されているゆいまーる(相互扶助)文化を基盤とした認知症ケアのあり方を検討する。

4. 研究成果

研究者らは平成27年度から1回/月、地域の公民館で開催される朝市の「場」で健康相談活動(血圧測定、体重測定、体脂肪測定、握力測定、血管年齢、骨密度測定、健康相談など)を実施した。また、1回/2ヶ月、老人会を中心とした健康支援活動(身体測定、健康講和)を自治体区長、老人会長、婦人部、民生委員などと協働して実施した。健康支援活動の内容も地域住民に浸透し利用登録者も延べ65名となり増加している(月の参加者は15名~25名、184名/年の利用者)。地区公民館で取り組んでいる健康支援活動を利用している高齢者の動機や健康づくり内容および活動の効果を明らかにする目的でインタビュー調査を実施した。結果、健康支援活動を利用している高齢者は健康づくりへの意識が高く、測定結果を楽しみにし、アドバイスを得て、独自の方法を模索しながら健康づくりに活かしていることが明らかになった。また、支援活動の場が病院ではなく、友人と交流ができ、朝市が開催される地域に密着した近くの公民館であり、リラックスした雰囲気の中での健康測定・相談が健康づくりの場として効果的であ

ることが示唆された。さらに、住民は(研究者らを含む)朝市で購入した惣菜を食しながら、自身の健康のこと(認知症を含む)、家族の健康のこと(認知症を含む)、地域の行事のことなどを語りあえる交流の場となっていることが明らかとなった。

老人会を中心としたミニディサービスや地域住民を対象としたアクティビティなどのヘルスアップ会の開催や認知症サポーター養成講座を実施し、認知症についての理解を深めた。23名の高齢者(平均年齢78.8歳)に認知症に関するイメージ調査を行った結果、全体的に否定的なイメージであった。特に「遅い」「鈍い」「ひどい」「だらしがない」「病気がちな」の項目で否定的であった。一方で「大きい」「手伝ってくれる」「暖かい」「強い」の項目で肯定的であった。また、老人会を中心として「認知症になっても住み慣れた地域で生活できるようにするには？」のテーマで、高齢者同士でグループに分かれディスカッションを行った。その結果、「家族や身近な人に助けてもらいながら健康でミニディに参加してみんなで楽しく生活する」、「サークル活動(運動、趣味など)に参加して地域の交流を深めて明るい生活をする」や「健康に気をつけてお互いに交流を深めて助け合う」など、顔なじみの関係を維持しながら協力して健康に生活したいという思いを持っていることが明らかとなった。また、近隣にある有料老人ホームに入所している認知症高齢者も公民館でのゆんたく(集い会話が出来る場)への参加を促し、お互いが気遣い合える交流の場が出来つつある。更に、地域で開催される行事(豊年祭、運動会など)に積極的に参加して地域住民との交流を深め、関係性の構築ができた。公民館を拠点として今後もお互いが気遣い・支えあえる交流の「場」づくりの必要性が示唆された。

学生ボランティアにおいては教育課程で「健康支援活動プロジェクト学習」科目を新設し継続的に支援ができるようになっている。

今後は本研究の結果を活かして、地域住民が気軽に集うことが出来る場としての昔ながらの「共同売店」を拠点とした地域包括ケアシステムの構築に活用できると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

永田美和子、佐和田重信、吉岡萌、安仁屋優子(2017): 沖縄県北部地域の高齢者を取り巻く健康支援に関する研究-高齢者へのインタビューを通して-、名桜大学総合研究、26号、71-77

永田美和子(2018): 公民館を拠点とした健康支援活動 - 認知症の方への支援の可能性 - 月刊ケアリング、20(6)、66-69

永田美和子(2019): 過疎地域の共同売店における地域住民の健康支援機能の可能性、月刊ケアリング、21(4)、60-63.

〔学会発表〕(計2件)

永田美和子、佐和田重信、吉岡萌、安仁屋優子(2016): 沖縄県北部地域の高齢者を取り巻く健康支援に関する研究、第36回日本看護科学学会学術集会

永田美和子、吉岡萌(2017): A study on supports for elderly residents in Okinawa, World Academy of Nursing Science the 5th International Nursing Research Conference(Bangkok, Thailand)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：大城凌子

ローマ字氏名：oshiro ryouko

所属研究機関名：名城大学

部局名：人間健康学部看護学科

職名：教授

研究者番号（8桁）：80461672

研究分担者氏名：佐和田重信

ローマ字氏名：sawada shigenobu

所属研究機関名：名城大学

部局名：人間健康学部看護学科

職名：准教授

研究者番号（8桁）：00614455

研究分担者氏名：伊波弘幸

ローマ字氏名：iha hiroyuki

所属研究機関名：名城大学

部局名：人間健康学部看護学科

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40712550

研究分担者氏名：前川美紀子

ローマ字氏名：maekawa mikiko

所属研究機関名：名城大学

部局名：人間健康学部看護学科

職名：教授

研究者番号（8桁）：70449966

研究分担者氏名：稲垣絹代

ローマ字氏名：inagaki kinuyo

所属研究機関名：名城大学

部局名：総合研究所

職名：共同研究員
研究者番号（8桁）：40309646

研究分担者氏名：吉岡萌
ローマ字氏名：yoshioka moe
所属研究機関名：名城大学
部局名：人間健康学部看護学科
職名：助手
研究者番号（8桁）：30734727

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。